

# Safety for Everyone

すべての人の安全をめざして

クルマやバイクに乗っている人だけでなく、社会の誰もが安心し、安全に暮らせる「事故に遭わない社会」をつくりたい、それが Honda の願いです。こうした交通事故ゼロ社会の実現に向け、わたしたちは「ヒト（安全教育）」「テクノロジー（安全技術）」「コミュニケーション（安全情報）」の3つの領域で、それぞれを高めると同時に相互の連携を図っていきます。

## 安全推進活動の3つの領域

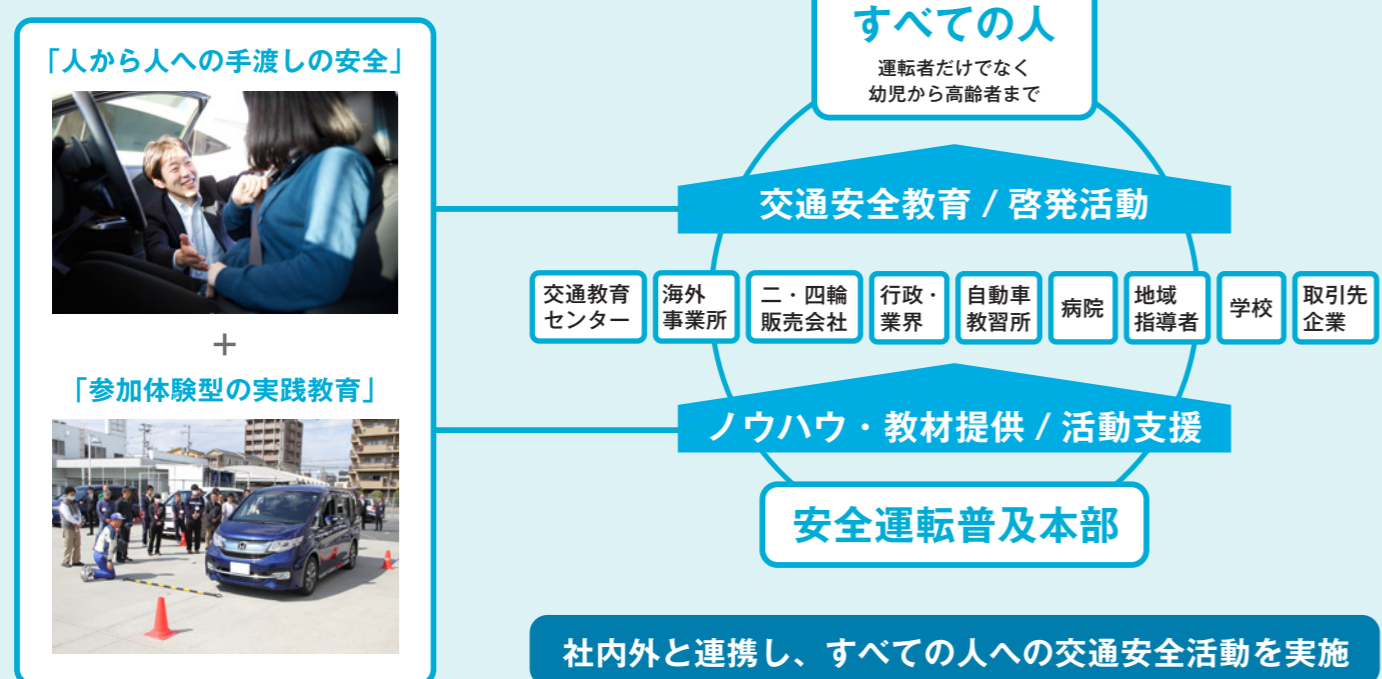


交通事故ゼロ社会の実現をリードする存在をめざす

## 安全運転普及本部の指針と推進体制

安全運転普及本部は交通安全の普及・推進を目的に 1970 年発足以来、交通安全に関わる様々なノウハウ・機器教材・情報を提供してきました。また活動では、危険を安全に体験する「参加体験型の実践教育」を通して、お客様や地域社会の皆様がふれあいの中で学ぶ「人から人への手渡しの安全」に重点を置いています。今後も Honda グループによる交通安全の普及活動を主体的に推進し、関係者・団体による各種活動への積極的な支援を継続していきます。

### 活動の基本



## 新たな時代を見据え、安全運転普及活動を進化

2030 年ビジョンに掲げた「交通事故ゼロ社会の実現」に向けて、安全運転普及活動が果たす役割は大きくなっています。2017 年も「人から人への手渡しの安全」と「参加体験型の実践教育」を基本として、新たな時代を見据えながら、交通社会の変化やニーズに合わせ、活動を進化させました。

### お客様に対する先進の安全運転支援システムの普及拡大のための正しい理解

衝突軽減ブレーキや誤発進抑制機能といった安全運転支援システム「Honda SENSING」を普及させるためには、搭載率向上に加え、お客様に手渡して、その効果や限界について正しく理解していただくことが重要です。そこで、四輪販売会社においてお客様と接するスタッフがシステムの理解を深め、同時に販売店などでの試乗体験を安全に運営するためのプログラムを開発。来年の本格的な実施に向けて、研修会を試行しました。

### 自身の運転の課題に気づいてもらい、行動の改善につなげるシステムを開発

鈴鹿サーキット交通教育センターでは企業の安全運転研修などにおいて、自己評価と客観評価との差異を受講者に認識してもらうことにより、運転意識と行動の変容を促す研修を提供してきました。今年は、この研修のベースとなっているシステムを刷新。個人個人の運転習慣の可視化がより明確となり、評価への納得性が飛躍的に向上しました。

### 児童への新たな教育プログラムの開発

歩行中の交通事故死傷者数を年齢別にみると、7 歳児が突出していることから、この年齢を含む小学校低学年を対象にした新たな教育プログラムを開発しました。このプログラムは、道路歩行時の危険予測を題材に、児童に「どうして危ないのか」を考えさせ、

気づきを促し、答えを導き出すところが特徴です。また、児童が道路横断時の安全確認の体験もできるようになっています。

このほか、今年は危険予測教育を充実させる機能を搭載した Honda ライディングシミュレーターをモデルチェンジし発売。また、「SAFETY MAP」に反映される急ブレーキ情報などを、道路改善などの事故防止策に役立てていただくため、昨年の大阪府警察本部、長野県警察本部に続き、千葉県警察本部、警視庁と交通事故防止対策の推進に向けた協定を締結しました。

高次脳機能障がい者の運転再開に向けた取り組みでは、各地域で自立して活動していただくため、沖縄県での指定自動車学校協会と作業療法士会との連携活動をサポートしました。

海外においては、Honda ベトナムが3月に新たな交通教育センターを開設。安全運転普及本部は、現地のインストラクターのスキルアップに協力しました。

### 2018 年に向けて

今後も様々な取り組みを通じて、「交通事故ゼロ社会の実現」をめざしていきたいと考えています。そして、皆様の期待に応えられますよう、より一層活動を進化させてまいります。

※活動内容の詳細につきましては、次ページ以降に記載しています。